

なり。本園幼児にて就学年令に達せる者を其儘にするは此事業を破壊するに等しければ工夫の末之を近傍の代用小学校長中村桑次郎氏に計れり。同氏幸に本園の主意を贊せられ本園より入学する者は特に授業料を減じ其他種々便宜を与へられしかば本年四月二名の幼児をして学に就かしむるを得たり。此事ききたる幼児の兄姉特に志願せし者ありて共に本園幼児同様に取扱ふ事を許され四名の生徒は本園監督の下に日々通学せり。

学校に行く者は欠席すとも日曜日の外毎日壹錢五厘宛持米らしめ授業料を収めたる残余にて筆墨紙を調へ置き一々受取りに來らしむ。かかる手数は多数の生徒に為し得べき事ならず、同主意学校の設立のせられん事希望に堪へず。

病児の取扱 少しの怪我「アカギレ」「ヒビ」等は薬品を調へ置きて治療を施せども病氣の場合には如何ともする能はざりしに赤坂病院院長「ホイトニー」氏及回生病院医員木沢敏氏は非常に此業を贊せられ

自ら進んで病児の世話せんと申込まれしかば爾來幾人かの子供は施療施薬の有りがたき恵に浴せるなり、両親と子供に代り深く感謝す」
(六戸)

- (注)
- 1 大阪保育会における演説「京阪神聯合保育雑誌」第13号、明治三十七年十二月
 - 2 「私立三葉幼稚園第一回報告」明治三十三年七月
 - 3 「私立二葉幼稚園第一回報告」所収
 - 4 野口幽香と森島峰
 - 5 神崎清編「現代婦人伝」60ページ
 - 6 同右 56ページ
 - 7 津守真ほか著「幼稚園の歴史」134ページ
 - 8 神崎清編「現代婦人伝」53ページ
 - 9 「二葉」という称は細川潤次郎の幼稚園保姆合唱歌のなか「二葉撫子さかゆく園生(そのふ)」という句から選んだといわれる(神崎編「現代婦人伝」60ページ)
 - 10 神崎編「現代婦人伝」55ページ
 - 11 同右 59ページ
 - 12 同右 60ページ
 - 13 右同 60ページ
 - 14 専任保姆として平野まちがいた。野口と森島は華族女学校幼稚園をやめることができず、その仕事をおえてから隔日に出園し監督と事務の仕事をした。
 - 15 「私立二葉幼稚園第一回報告」
 - 16 「京阪神聯合保育雑誌」第20号

幼児の教育 第六十二巻 第九号

九月号 © 定価六〇円

昭和三十八年八月二十五日 印刷

昭和三十八年九月一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館 にお願いたします。